

令和元年度 学校保健統計調査の結果報告（広島県分）の概要について

学校保健統計調査は、学校における幼児、児童及び生徒（以下「児童等」という。）の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的として、文部科学省が毎年実施しているものである。

この速報は、文部科学省が取りまとめた調査の結果（令和2年3月23日公表）のうち広島県分を取りまとめたものある。

1 調査の対象

調査の対象は、幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校及び高等学校のうち、文部科学大臣があらかじめ指定した学校（以下「調査実施校」という。）であり、調査実施校に在籍する満5歳から17歳までの児童等の中から、発育状態調査については、文部科学省が指定する抽出方法により一部の児童等を対象とし、健康状態調査については、調査実施校に在籍する児童等全員を対象とした。

広島県における全児童等に対する調査対象児童等の抽出率は、発育状態調査が4.6%（14,421人）、健康状態調査は25.3%（78,714人）となっている。

区 分		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	計	【参考】
在学者数(a)		12,933人	151,773人	75,287人	70,857人	310,850人	全国の抽出率
発育	調査対象者数(b)	1,338人	5,791人	4,561人	2,731人	14,421人	695,600人
	抽出率 (b)／(a)	10.3%	3.8%	6.1%	3.9%	4.6%	5.2%
健康	調査対象者数(c)	2,325人	33,915人	18,604人	23,870人	78,714人	3,371,982人
	抽出率 (c)／(a)	18.0%	22.3%	24.7%	33.7%	25.3%	25.2%

(注)1 幼稚園には幼保連携型認定こども園を、小学校には義務教育学校(第1～6学年)を、中学校には義務教育学校(第7～9学年)及び中等教育学校の前期課程を、高等学校には中等教育学校の後期課程をそれぞれ含む(以下同じ)。

2 在学者数は、令和元年度学校基本調査(速報)の結果による。なお、幼稚園については、5歳児の幼児数としている。また、高等学校については、4学年、専攻科及び通信制の生徒数を除いている。

2 調査事項

学校保健安全法による健康診断の結果に基づき、児童等の発育状態(身長、体重)及び健康状態(疾病・異常等の有無)を調査

3 調査の実施時期

平成31年4月1日から令和元年6月30日の間に実施

4 調査結果のポイント

【発育状態調査】

- ・調査開始の昭和23年度以降、身長(平均値)、体重(平均値)共に増加傾向にあったが、平成に入ってから、身長は横ばい傾向、体重は横ばい、又は、減少傾向となっている。
- ・身長、体重共に、全国平均と同程度、又は、全国平均を下回っている。

【健康状態調査（都道府県別の集計が開始された平成18年度以降）】

- ・裸眼視力1.0未満の者は、小学校及び中学校で過去最多となっている（幼稚園及び高等学校については、サンプル数が少なく非公表）。
- ・「むし歯(う歯)」の者（処置完了者を含む。以下同じ。）については、全ての学校種別で減少傾向が続いており、幼稚園、小学校及び高等学校で過去最少となっている。また、全国と比較しても、全ての学校種別で全国を下回っている。

● 調査結果の概要

1 発育状態調査

- ・身長（平均値）
男子では、8歳、13歳、16歳及び17歳、女子では、5歳、8歳、9歳、14歳、15歳及び17歳で前年度より高くなっている。全国と比較した場合、全ての年齢で全国を下回っている。
- ・体重（平均値）
男子では、6歳、8歳及び10歳から17歳、女子では、5歳から12歳、14歳、及び16歳で前年度より増加している。全国と比較した場合、男子は8歳及び12歳、女子は16歳以外の年齢で全国を下回っている。

年齢別 身長（前年度及び全国との比較）

（単位：cm）

区分		男子					女子				
		令和元年度	平成30年度		令和元年度（全国）		令和元年度	平成30年度		令和元年度（全国）	
		A	B	差 A-B	C	差 A-C	A	B	差 A-B	C	差 A-C
幼稚園	5歳	109.6	110.4	△ 0.8	110.3	△ 0.7	109.1	108.9	0.2	109.4	△ 0.3
小学校	6歳	115.6	116.0	△ 0.4	116.5	△ 0.9	114.8	115.2	△ 0.4	115.6	△ 0.8
	7	121.6	122.0	△ 0.4	122.6	△ 1.0	120.8	121.1	△ 0.3	121.4	△ 0.7
	8	127.8	127.4	0.4	128.1	△ 0.3	126.9	126.9	0.0	127.3	△ 0.4
	9	132.9	133.9	△ 1.0	133.5	△ 0.5	132.9	132.4	0.5	133.4	△ 0.5
	10	137.9	138.0	△ 0.1	139.0	△ 1.1	139.1	139.4	△ 0.3	140.2	△ 1.1
中学校	11	144.4	144.9	△ 0.5	145.2	△ 0.8	145.5	146.3	△ 0.8	146.6	△ 1.1
	12歳	151.9	152.3	△ 0.4	152.8	△ 0.8	151.1	151.2	△ 0.1	151.9	△ 0.7
	13	159.1	158.9	0.2	160.0	△ 1.0	153.9	154.4	△ 0.5	154.8	△ 0.9
高等学校	14	164.2	164.3	△ 0.1	165.4	△ 1.1	155.6	155.5	0.1	156.5	△ 0.9
	15歳	167.5	167.6	△ 0.1	168.3	△ 0.9	156.3	156.2	0.1	157.2	△ 0.9
	16	169.4	169.1	0.3	169.9	△ 0.5	157.5	157.5	△ 0.0	157.7	△ 0.2
	17	170.4	170.3	0.1	170.6	△ 0.3	157.4	157.2	0.2	157.9	△ 0.4

（注）1 年齢は、各年4月1日現在の満年齢である（以下同じ）。

2 「△」は減少を示す（以下同じ）。

3 令和元年度との差（「A-B」及び「A-C」）は小数点第2位を四捨五入している（以下同じ）。

年齢別 体重（前年度及び全国との比較）

（単位：kg）

区分		男子					女子				
		令和元年度	平成30年度		令和元年度（全国）		令和元年度	平成30年度		令和元年度（全国）	
		A	B	差 A-B	C	差 A-C	A	B	差 A-B	C	差 A-C
幼稚園	5歳	18.7	19.0	△ 0.3	18.9	△ 0.2	18.4	18.3	0.1	18.6	△ 0.2
小学校	6歳	21.0	21.0	0.0	21.4	△ 0.4	20.6	20.6	0.0	20.9	△ 0.3
	7	23.5	23.9	△ 0.4	24.2	△ 0.7	23.3	23.2	0.1	23.5	△ 0.2
	8	27.6	26.6	1.0	27.3	0.3	26.4	26.3	0.1	26.5	△ 0.1
	9	30.2	30.8	△ 0.6	30.7	△ 0.5	29.9	29.3	0.6	30.0	△ 0.1
	10	33.6	33.0	0.6	34.4	△ 0.8	33.6	33.6	0.0	34.2	△ 0.6
中学校	11	38.1	37.9	0.2	38.7	△ 0.6	38.7	38.7	0.0	39.0	△ 0.2
	12歳	44.4	44.4	0.0	44.2	0.2	43.6	43.5	0.1	43.8	△ 0.3
	13	48.9	48.0	0.9	49.2	△ 0.4	46.8	47.4	△ 0.6	47.3	△ 0.5
高等学校	14	53.7	53.2	0.5	54.1	△ 0.4	49.8	49.3	0.5	50.1	△ 0.2
	15歳	57.9	57.6	0.3	58.8	△ 0.9	50.8	50.9	△ 0.1	51.7	△ 0.9
	16	59.8	59.7	0.1	60.7	△ 0.9	52.7	52.4	0.3	52.7	0.0
	17	62.3	61.6	0.7	62.5	△ 0.2	51.9	52.1	△ 0.2	53.0	△ 1.1

2 健康状態調査

(1) 主な疾病・異常の被患率等

- すべての学校種別で「むし歯（う歯）」の者の割合が上位となっており，幼稚園，小学校及び高等学校ではその割合が最も多い。一方，全ての学校種別で減少傾向が続いており，幼稚園，小学校及び高等学校で過去最少となっている。
- 「裸眼視力 1.0 未満の者」の割合はサンプル数が少なく数値が非公表の幼稚園及び高等学校を除き，上位となっている。また，中学校ではその割合が最も多くなっている。

学校種別 疾病・異常の被患率等の上位

(単位:%)

学校種	順位	疾病・異常等	割合	学校種	順位	疾病・異常等	割合
幼稚園	1	むし歯(う歯)	25.4	中学校	1	裸眼視力1.0未満の者	64.9
	2	耳疾患	4.4		2	むし歯(う歯)	29.8
	3	鼻・副鼻腔疾患	4.1		3	鼻・副鼻腔疾患	8.6
	4	口腔咽喉頭疾患・異常	3.7		4	眼の疾病・異常	5.7
	5	アトピー性皮膚炎	2.4		5	歯列・咬合	5.6
小学校	1	むし歯(う歯)	40.8	高等学校	1	むし歯(う歯)	36.0
	2	裸眼視力1.0未満の者	37.0		2	鼻・副鼻腔疾患	9.2
	3	鼻・副鼻腔疾患	11.9		3	歯列・咬合	4.9
	4	眼の疾病・異常	8.1		4	眼の疾病・異常	4.4
	5	歯・口腔のその他の疾病・異常	5.5		4	歯肉の状態	4.4

(2) 主な疾病・異常の被患率等の全国との比較

- 「裸眼視力 1.0 未満の者」の割合は，小学校及び中学校で全国を上回っており，過去最多となっている（幼稚園及び高等学校については，サンプル数が少なく非公表）。
- 「眼の疾病・異常」の者の割合は，全ての学校種別で全国を上回っており，小学校は過去最多となっている。
- 「むし歯（う歯）」の者，「ぜん息」の者の割合は，全ての学校種別で全国を下回っている。また，「むし歯（う歯）」の者の割合は，幼稚園，小学校及び高等学校で過去最少となっている。

学校種別 主な疾病・異常等の全国との比較

(単位:%)

区分	裸眼視力 1.0未満の者		眼の疾病・異常		耳疾患		鼻・副鼻腔 疾患		むし歯 (う歯)	
	広島県	全国	広島県	全国	広島県	全国	広島県	全国	広島県	全国
幼稚園	X	26.06	2.3	1.92	4.4	2.57	4.1	3.21	25.4	31.16
小学校	37.0	34.57	8.1	5.60	5.1	6.32	11.9	11.81	40.8	44.82
中学校	64.9	57.47	5.7	5.38	3.7	4.71	8.6	12.10	29.8	34.00
高等学校	X	67.64	4.4	3.69	3.5	2.87	9.2	9.92	36.0	43.68

区分	歯列・咬合		歯垢の状態		歯肉の状態		アトピー性 皮膚炎		ぜん息	
	広島県	全国	広島県	全国	広島県	全国	広島県	全国	広島県	全国
幼稚園	2.1	4.29	0.1	0.92	0.0	0.19	2.4	2.31	-	1.83
小学校	4.7	5.04	2.5	3.14	1.7	1.99	3.2	3.33	2.3	3.37
中学校	5.6	5.36	4.8	4.50	5.3	4.21	2.3	2.87	1.6	2.60
高等学校	4.9	4.53	3.9	4.76	4.4	4.35	2.7	2.44	1.1	1.79

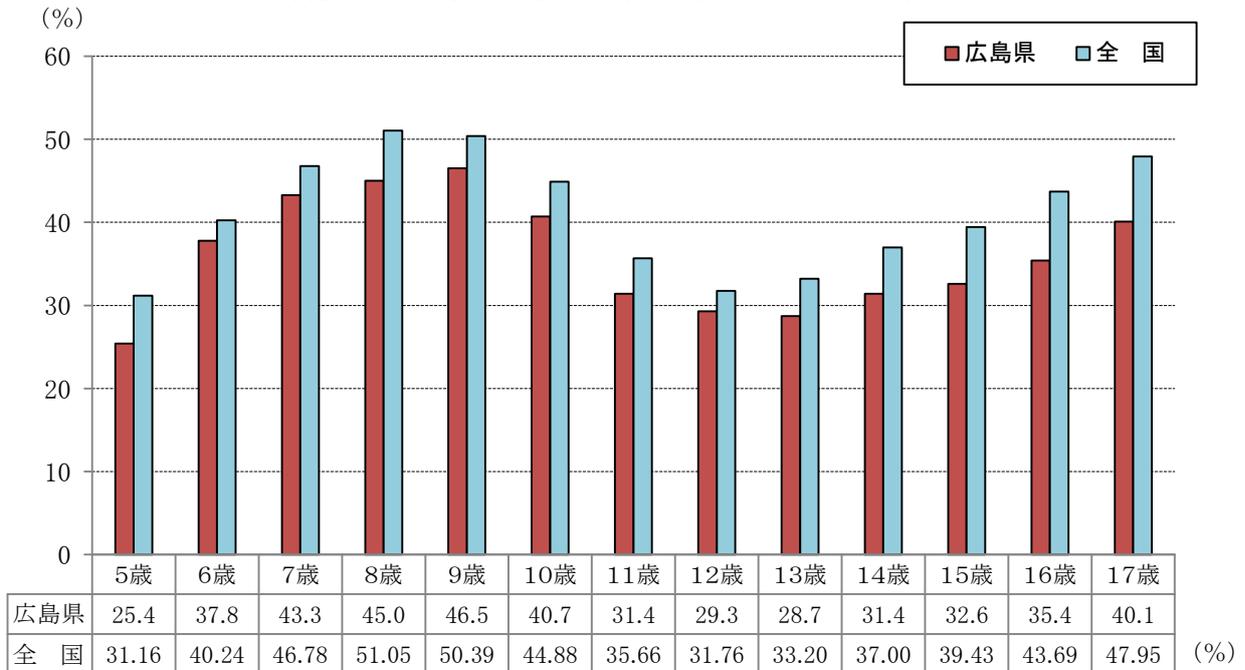
(注) 1 サンプル数が少ないため非公表となっているものについては，「X」と表示している。また，該当者がいない等で計数がないものについては，「-」と表示している(以下同じ)。

2 全国の数値は小数点第2位まで，県の数値は小数点第1位までを表章している(以下同じ)。

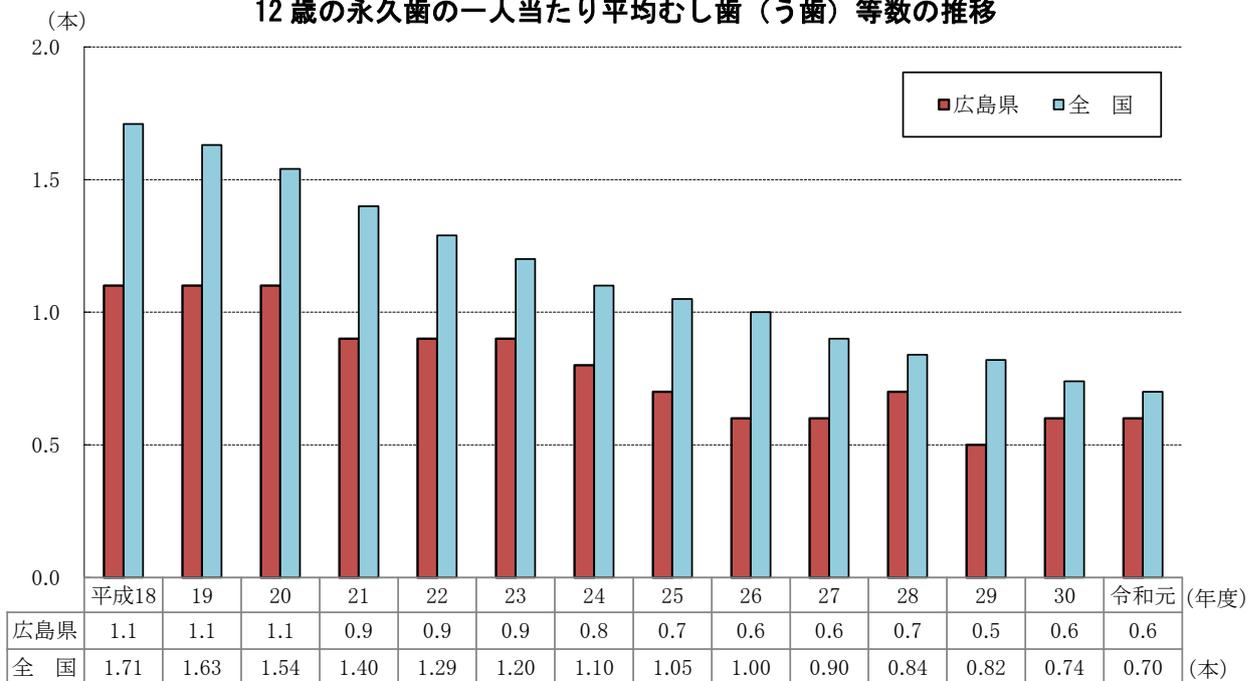
(3) むし歯（う歯）の状況

- ・「むし歯（う歯）」の者の割合は、9歳が46.5%と最も高くなっている。全国と比較した場合、全ての年齢で全国を下回っている。
- ・中学校1年（12歳）のみを調査対象としている永久歯の一人当たりの平均むし歯等数（喪失歯及び処置歯数を含む。）は、前年度とほぼ横ばいの0.6本となっている。全国と比較した場合、平成18年度以降、全ての年度において全国を下回っている。

年齢別 むし歯（う歯）の者の割合の全国との比較



12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯（う歯）等数の推移



この報告書の内容は、文部科学省及び広島県のホームページでも提供しています。

「学校保健統計調査」及び「広島県学校保健統計調査」で検索してください。

文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa05/hoken/1268826.htm

広島県 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/toukei/gakkohokentoukeitvousa.html>

問い合わせ先 広島県総務局統計課 消費経済・教育統計グループ 電話 082-513-2534(ダイヤルイン)



政府統計